

症例演習

責任者名：林 誠(歯科保存学Ⅱ 教授)

学期：前期

対象学年：6年

授業形式等：演習

◆担当教員

各講座の学習指導委員が担当する。

林 誠(歯科保存学Ⅱ 教授)

藤田 智史(基礎自然科学分野(生物) 教授)

小峰 太(歯科補綴学Ⅲ 教授)

松本 邦史(歯科放射線学 准教授)

生木 俊輔(口腔外科学Ⅱ 専任講師)

新井 嘉則(歯科放射線学 教授)

出澤 幸(歯科放射線学 助教)

野間 昇(口腔内科学 教授)

篠塚 啓二(口腔外科学Ⅰ 専任講師)

白土 博司(口腔外科学Ⅱ 助教)

小柳 裕子(歯科麻酔学 准教授)

金子 啓介(歯科麻酔学 助教)

平場 晴斗(歯科補綴学Ⅲ 助教)

窪地 慶(歯科補綴学Ⅲ 助教)

伊藤 智加(歯科補綴学Ⅰ 専任講師)

浦田 健太郎(歯科補綴学Ⅰ 助教)

大山 哲生(歯科補綴学Ⅱ 専任講師)

安田 裕康(歯科補綴学Ⅱ 助教)

中山 潤利(摂食機能療法学 准教授)

蓮池 聡(歯科保存学Ⅲ 専任講師)

清水 康平(歯科保存学Ⅱ 准教授)

鈴木 裕介(歯科保存学Ⅱ 助教)

安川 拓也(歯科保存学Ⅱ 助教)

納村 泰弘(歯科矯正学 准教授)

黒川 弘康(歯科保存学Ⅰ 准教授)

小森谷 康司(歯科保存学Ⅰ 助教)

稲葉 瑞樹(歯科矯正学 助教)

高森 一乗(小児歯科学 専任講師)

◆一般目標 (GIO)

歯科医師国家試験に対応するための臨床的知識を修得するために、過去に出題された歯科医師国家試験の臨床実地問題に対する理解を深めることによって学力の一層の向上を図る。

◆到達目標 (SBOs)

- ① 歯科臨床医学の知識を使用できる。
- ② 臨床実地科目の知識を使用できる。

◆評価方法

症例演習の合格基準を得点率が 60%以上とする（成績評価表示とする）。

なお、症例演習を受講した上で、その成績が合格基準に達しなかった場合でも、統合試験 VIb において合格基準を満たせば成績を付与する。

上記における合格基準の得点率は、小数点以下を切り捨てた値（第 1 位を四捨五入しない）で判定する。

再試験および追試験は行わないため、欠席することのないよう日頃から体調管理を心掛けること。

なお、症例演習は、指定された日時で該当する科目の試験問題について解説を行う。

遅刻、欠席を認めない。出欠席を確認した時点で不在の場合、欠席扱いとする。

欠席が 5 日以上の場合、理由と事情を鑑みて課題を課す、症例演習の点数から減点、症例演習試験の受験停止などの措置を行う。

欠席、公欠、忌引等の場合、登校後速やかに（欠席予定の場合は事前に）教科担当責任者まで欠席届等を提出すること。なお、欠席届を確認し、正当かつやむを得ない理由によるものと判断された場合のみ、欠席を解除することがある。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間 ・ 場所など	メールアドレス ・ 連絡先	備考
林 誠	火曜日 17:00~18:00 歯科保存学第 II 講座研究室	hayashi.makoto53_at_nihon-u.ac.jp (_at_は@)	各講座の学習指導委員が担当する。教員が多数のため、オフィスアワーは教科担当責任者のみ記載してある。必要に応じて各担当教員とアポイントを取り、学修効果の向上に努めること。

◆授業の方法

学習指導委員による講義および講義内容に関連する歯科医師国家試験の臨床実地問題での演習、解説で構成されている。

学習指導委員はスライド等を用いて講義を行う。また、講義内容を補完するためにプリントを配布する。講義および復習を通じてプリントを整備し、知識の習熟を図ること。

臨床実地問題での演習により、講義で得た知識をどのように活用するかを知るとともに、解説を受けることで知識の習熟を図ること。

講義および演習に関する質問は授業時に随時受け付けるが、オフィスアワーも有効活用すること。

授業は関連する科目ごとに配置している（領域別に編成）。各科目の授業内容の繋がりを考え、系統立てて学修すること。

【実務経験】教科担当責任者を含む学習指導委員（臨床系科目教員）：在職している日本大学歯学部付属歯科病院診療科での経験および各講座において担当している授業経験を踏まえて、歯科医師国家試験の臨床実地問題に対応

可能な臨床的知識を習得する場を提供したいと考えている。(症例演習)

◆教材(教科書、参考図書、プリント等)

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	指定しない。			
参考書 1	平成 30 年版歯科医師国家試験 出題基準(厚生労働省監修)			
参考書 2	最新版歯科医師国家試験問題集		指定しない。	

◆DP・CP

DP1

コンピテンス：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

コンピテンシー：医の尊厳を理解し、法と倫理に基づいた医療を実践するために必要な豊かな教養と歯科医学の知識を修得できる。

DP2

コンピテンス：世界の現状を理解し、説明する力

コンピテンシー：国際社会の現状と背景を理解し、地域社会における医療・保健・福祉の役割が説明できる。

DP3

コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。

DP4

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

DP5

コンピテンス：挑戦力

コンピテンシー：新たな課題の解決策を見出すために、基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

CP1

歯科医学と医療倫理の基礎的知識を修得し、社会人としての品格と医療人になるための自覚を養成する。

CP2

国内外の医療・保健・福祉の現状を理解し、基礎・臨床・社会医学の知識を基に、国際社会で活躍できる基本的能力を育成する。

CP3

幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

CP4

歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

CP8

各学年における学修で得た歯科医学の知識、技術および省察力をもとに、歯科医師として生涯にわたり学習する姿勢を育成する。

◆準備学習(予習・復習)

事前に歯科医師国家試験出題基準を読み、臨床実地問題の出題基準を理解するとともに、歯科医師国家試験問題集を必ず学修しておくこと。

◆準備学習時間

授業時間の半分程度以上を充てて予習と復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

歯科臨床医学および臨床実地科目

◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
			1 ～ 4	歯科臨床医学および臨床実地科目 3月～7月 ※詳細は別途通知 なお、症例演習は、指定された日時で該当する科目の試験問題について解説を行う。これにより、知識の習熟を図ること。	歯科医師国家試験の臨床実地問題に対応できる基本的な知識を身に付ける。		歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）の各科目の内容を参照のこと

